プロジェクト　安全・安心の「青森りんご」輸出基盤の強化

目　標

・国産りんご輸出額（年産）　R4：206億円　→　R10：220億円

挑戦する内容

・台湾向け輸出リスク低減に向けた選果技術の実用化
・放任園対策の強化
・台湾行政機関等との信頼関係の強化
・輸出先の検疫条件に対応した産地体制の強化

関係者の声＝対話

・夏場の猛暑で病害虫の発生が多くなっており、機械選別の開発により輸出不合格リスクの低減が望まれる（出荷業者）
・モモシンクイガ等病害虫の発生源となっている放任園の解消が必要（農協）
・隣接する放任園の伐採等処理を要望（生産者）

役割分担

・市町村・農協　：放任園の実態把握、情報提供、現地指導
・選果機メーカー　：機械選別技術の実用化
・産技センター　：病害虫被害果の提供等、機械選別技術開発に向けた協力
・大学・公的研究機関：デジタル技術等の活用の協力
・県　：検討会開催、台湾側との情報交換

変革後の姿

・放任園の解消により、モモシンクイガ等病害虫の発生密度が低下
・デジタル技術を活用した精度の高い機械選果による台湾側の信頼確保

令和６年度計画

挑戦する内容

モモシンクイガによる被害果

１　台湾向け輸出リスク低減に向けた選果技術の実用化
・他産地や、他果実での課題解決先進地を調査
・モモシンクイガ被害果の機械選別技術の実用化に向けた委託公募

２　放任園対策の強化
・放任園等相談体制づくりに向けた検討会の開催、解消優良事例の作成
・自力伐採が困難な園地をりんごフリー伐採園地として設置・活用

３　台湾行政機関等との信頼関係の強化
・台湾行政機関や台湾青森りんごの会との意見交換
・市場や量販店における県産りんごの流通状況調査

４　輸出先の検疫条件に対応した産地体制の強化
・検疫制度説明会や研修会の開催
・登録選果こん包施設の巡回指導

対話

・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（８月、１月）
・放任園の対策検討会の際に、市町村や農協等も参加し、意見交換の場を設定し、放任園解消優良事例を収集（５月、７月、９月）
・委託先メーカーと産技センター、公的研究機関、大学で組織するチームを編成し、機械選別技術の実用化について情報交換（８月、11月、２月）